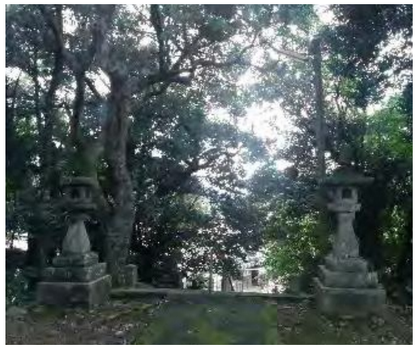


有福温泉周辺整備計画

有福温泉の歴史と伝統を受け継ぎ
これからの新しいビジョンに向けて
相応しい玄関口のデザインを。

はじめに

今回の有福温泉周辺整備計画にあたり修景設計の足掛かりとなる、“デザインの柱”や“テーマ”を決めていかなくてはなりません。
そこで温泉街の歴史や現状や課題などを考察し、修景設計の柱となるテーマについて見解を述べさせて頂きます。

有福温泉の歴史

有福温泉は約１万年前の雨水が途方もない年月をかけて熟成し、現世に湧き出している全国でも珍しい、大変ありがたい温泉です。飛鳥時代650 年頃に天竺から入朝した、法道仙人により発見されたと言われています。
『この霊泉は昼夜の別なく湧出し、試浴するに心身爽快、永年の痼疾も軽快になった。霊験あらかたの評がたち、寒暑、遠近の別なく湯浴の客が増してきた。』こうして歴史ある山陰の名湯として親しまれる、有福の長い歴史が始まることになりました。
江戸時代には改革と共に街道の整備が進み、宿場町として宿が発達しました。現存する有福の旅館はこの当時に創業したものが多いといわれています。
明治時代になると軍傷病兵の手当て及び慰安所として徴用され始め、永らく湯治場だった町が花街として栄えるようになります。
昭和期には、大型観光バスによる団体客メインの営業形態として栄えましたが、現在の個別旅行主体の時代と共に、繁栄した旅館が軒並み減少し、空き家や空き店舗が目立つようになりました。

温泉街の現状と課題

景観としては現在でもこの地方独特の福光石の石畳や、赤瓦の旅館、山間の斜面に沿った高密度建築群が残り、今では数少ない江戸期の香り漂う温泉街の風情を残しています。
しかし、一方では街全体の建物や看板・案内板等に景観の統一感がなく、空き家や空き店舗が多く、玄関口をはじめ全体として活気がなく、昭和の大型観光の名残が漂う寂れた温泉街という印象を与えています。神仏のある場所の景観も中にはいささか荒れた雰囲気になってしまっている所もあり、観光客が求める魅力ある温泉街の景観に影を落としています。また、温泉施設の風呂焚きが薪からボイラーに変わったことで、里山の景観も季節感の無い荒れた雰囲気に変わってしまいました。
温泉については泉質を含めた魅力を活かしきれていません。有福温泉は１万年前の雨水が途方もない年月をかけて湧き出る珍しい温泉であり、古くから遠近の別無しに治療のため湯客が訪れる優れた泉質の他所にはない魅力があります。
こうした温泉そのものの魅力やストーリー性をプロモーションするとともに、長い歴史と誰もが愛した、赤瓦と山間の斜面に建つ密集建築群の美しい景観を取り戻すことが今後の課題としてあります。
一方街の安全面に関しても、町全体が山に囲まれた狭隘な敷地にあるため、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されている場所が多くあります。また、雨量が多い時には温泉街の中を流れる河川が頻繁に氾濫し、過去には大きな災害に見舞われたこともあります。こうして有福温泉の住人・観光客にとって安全安心な地域としての課題も残されています。
町全体としても大切に残し続けていくものとそうでないものをしっかりと精査し、次のステップにしっかりと備えていかなくてはなりません。

修景設計についての見解

山陰の名湯として、飛鳥時代から湯治場として続く歴史と伝統の他、厳かな山間の狭隘な敷地に建つ鄙びた温泉街の風情と品格に相応しい景観整備が求められます。整備方針としては建物だけではなく、町並みを形成する要素である道路等施設についても可能な限り、地場の材料である石州瓦や福光石、土材や板材などといった自然材料を使い、江戸期～昭和初期までのノスタルジックで品の良い景観へと戻していく事が修景設計の柱になると考えます。基本的に街中で見受けられる自然素材、自然の物に近い色（石州瓦の来待色や黄土色や鋳物色等）を使い、統一感のある昔ながらの有福の景観を作っていくのが望ましいでしょう。具体的には、街中や周辺の舗装整備にも石畳や脱色アスファルト、瓦舗装や土色系舗装を施し、看板や案内板のマテリアルや色の統一化を図ります。
今回の県事業である（主）田所国府線有福温泉工区周辺整備事業においても、街中との統一感をもって合わさることで、有福温泉の玄関口として相応しい景観を形成していきます。こうして、魅力ある温泉街再興の第一歩が踏み出せると考えます。

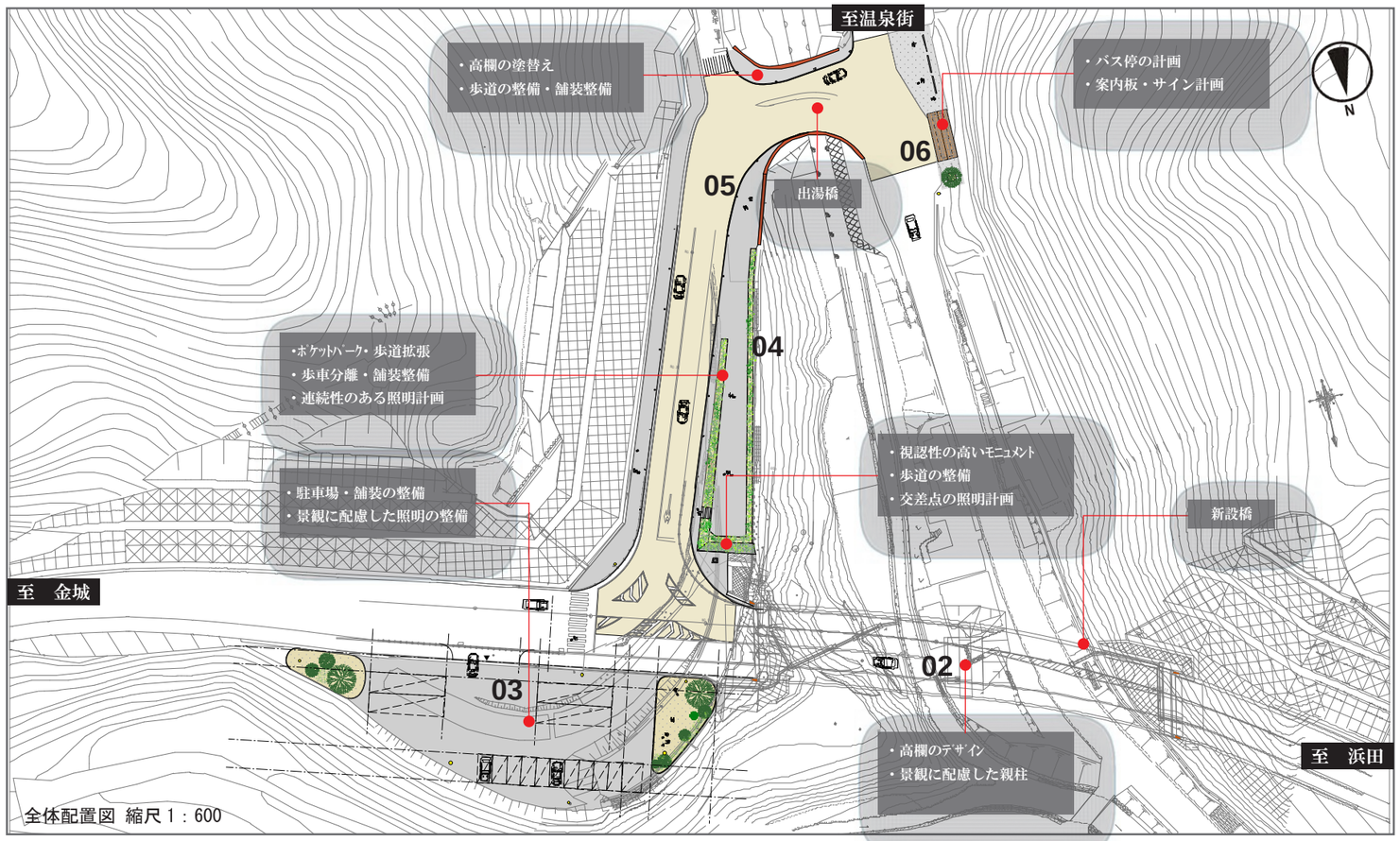
『主要テーマ』
伝統ある温泉の風情と品格にふさわしい周辺整備
『デザインの柱』
街中で見受けられる自然素材や色を使い、昔ながらの有福の景観との統一感を持たせる。

※昔写真　：web ブログ「元島根県民のお部屋」、 御前湯掲載写真、 参照

全体計画

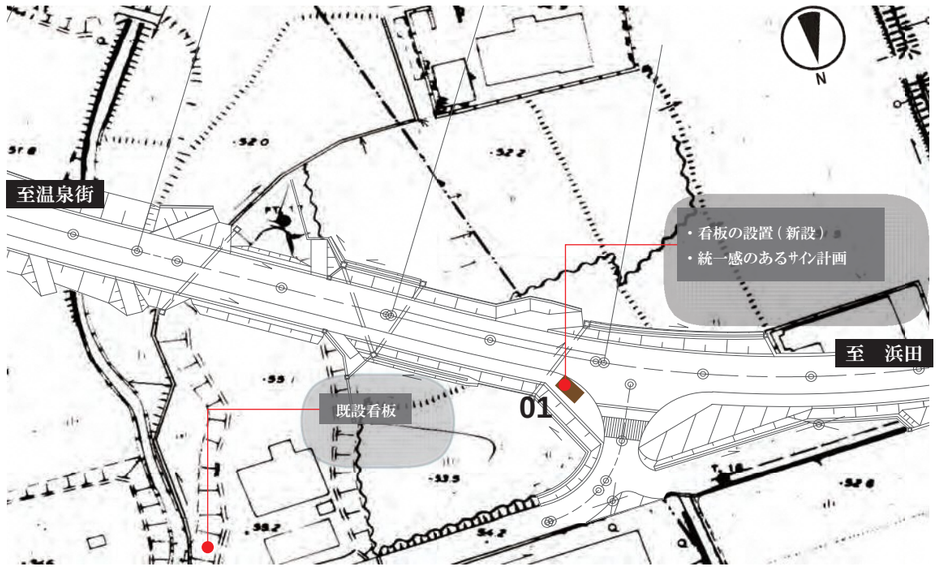
今回の整備事業により、有福温泉の玄関口が大きく変わります。主要なアプローチの仕方が変わる他、温泉街の前にしっかりとした門前スペースが出来ます。
この門前スペースは有福温泉の最初のイメージを決める重要なアプローチ空間であり、有福温泉の歴史や伝統、これからのビジョンに向けて、相応しい品格が求められています。外部からの湯客にとっても道が分かりやすく、綺麗に整備された門前を通って，有福温泉に期待を膨らましながらアプローチする、素晴らしいプロローグとなります。

『ポイント』
- 温泉街と統一感のあるデザイン
- 温泉街へいざなう空間づくり



全体配置図 縮尺 1：600

01　バイパス入口部分（浜田側）のサイン計画



バイパス入口部分地図　縮尺 1：600

浜田側のバイパス入口部分に有福温泉を示すサインを計画。フォントデザインは街中のサイン計画と民間看板等とも統一感を持たせ、インバウンド対応として英語表記や有福温泉を一言で表す文言も検討。

02　新設橋の景観計画

新設橋イメージパース

谷間の林に囲まれた新設橋、高欄の塗装には石州瓦や石見焼きなど地元の伝統的な来待色や周りの緑と歩調を合わせた深緑色などを計画。
親柱は自然素材を用い和風で素朴な昔の有福を再現するようなデザインを計画。

03 旧道残地①の活用計画

旧道残地①の活用イメージ

玄関口のＴ字路に隣接する旧道残地①。
大型車の駐車場や様々なイベントにも活用できるフリースペースとして 整備。

04　旧道残地②の活用計画

旧道残地②の活用イメージ

玄関口としてふさわしい、アプローチ空間の一部としての意匠性と有福温泉のブランディングに寄与する役割が求められる旧道残地②。
表札を兼ねた石碑等を設置し、しっかりと境界のデザインを行う。またフォトジェニックな空間とすることでブランディングに寄与。

05　アプローチ空間としての道路整備

アプローチ参道風イメージ（yamagiwa　参照）

温泉街を望む下り坂のアプローチ、谷川の林と崖に囲まれ、等間隔に照明のモニュメントが並ぶ参道の様なデザイン。
歩行空間としても整ったアプローチ空間を計画し、観光客を温泉街へと誘う。

06　温泉街入り口付近の景観改善

温泉街入り口付近イメージパース

湯客にわかりやすい温泉街の入り口付近に有福の歴史や案内板・見どころマップなど配置。バス待合も石州瓦屋根と板壁など素朴で柔らかい昔ながらの石見のデザインに、年を重ねるごとに味わいを増す、有福らしい景観へ。既存欄干も再塗装する事で綺麗に整備された道の印象へ。

01 バイパス入口部分（浜田側）のサイン計画

『ポイント』

来訪者に対して有福温泉の魅力を分かりやすく伝える、雰囲気の良いサインを計画する。

浜田側のバイパス入口部分に、有福温泉を示すサインを計画します。これは有福温泉に向かう道中で最初に湯客をお迎えする看板であり、モニュメントです。
フォントデザインは街中のサイン計画と民間看板等とも統一感のあるものとし、有福温泉が持つ歴史や伝統・品格に相応しいものにすると良いでしょう。
また、インバウンド対応として、英語表記の検討や、有福温泉のブランディングの柱として、他の温泉との差別化を図るため、有福温泉を一言で言い表すような文言の検討も必要です。この文言は観光客にとっても有福温泉の本当の価値や魅力を端的に感じ、地元の人にとっても誇りとなるものが望まれます。
隣接地に既設の看板がありますが、既設看板の移設は困難なため、新設サインを検討します。

既存看板

有馬温泉看板（Google map 参照）

フォントについて

フォントについては看板や案内板など、街中も含めると現在、様々なフォントが使われています。名前を表すような表札となるフォントは基本的には昔ながらの毛筆体調が良いと思われます。案内板など説明文章がつくものは、毛筆体だと読みづらいので、現代でも一般的な和風でありながら一般的で読みやすいフォントが良いと思われます。その様な形で一定のルールを設け、県事業・市事業、民間事業の看板を統一化して行くことで、有福温泉としてのまとまりが生まれ、良いブランディングの一部になると考えます。

英語表記について

今後のインバウンド需要を考えると、インターネットの発達もあり、今まで観光客が足を踏み入れる事のなかった場所へも興味があればどんどん観光客が訪れるようになってくると予想されています。現在、特に欧米人の多くが京都ではなく、広島を憧れの地としてあげています。厳島神社や瀬戸内 DMO の影響もありますが、多くは原爆資料館や原爆から立ち直った都市としての興味を広島に持っています。有福も広島からそう遠くない立地条件、また原爆療養施設などあったこと等、PR 次第ですが、多くの外国人の観光客が訪れる可能性を秘めています。その為英語表記は検討が必要です。

有福を一言で表すと

現在では多くの温泉施設が様々なところに混在しています。多くの観光客にとって有福温泉とはどんな温泉なのか知っている人は少ないのではないでしょうか？
有福温泉は飛鳥時代の 1360 年前に発見されたと言われ、その間に遠近の別無く、様々な人の病を治し、癒し続けてきた歴史を持っています。また、縄文時代・一万年前の雨水が途方もない年月をかけて湧き出しているという、日本でも希有の泉質のストーリーを持っています。それを伝わりやすく、端的に表現する事で他温泉施設との差別化を図り、観光客も行ってみたいと思う温泉地になるのではないでしょうか。ブランディングとして非常に大事な事であり、地域の人たちにとっても忘れかけていた誇りに繋がるのではないかと考えます。

02 新設橋の景観計画

『ポイント』

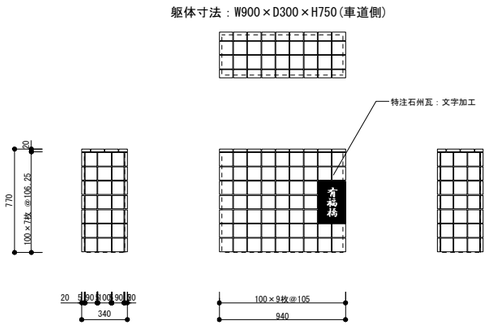
景観に馴染む高欄・橋桁の配色と景観配慮型親柱の設置

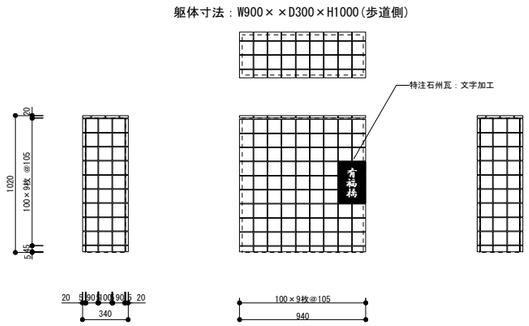
多くの湯客はバイパス入口に設置した看板をまっすぐ通り抜け、谷間の林に囲まれた新設橋を渡ります。T 字路を右折すると温泉街へのアプローチです。橋と温泉街、とても相性の良いアプローチ空間が湯客の気持ちを盛り上げます。親柱には石州瓦タイルなどの地域素材を用いることで、ノスタルジックな有福温泉らしさが出るでしょう。

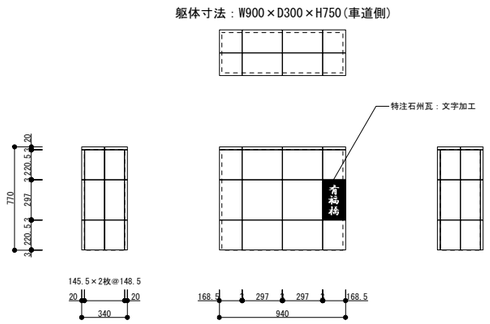
欄干の塗装に関しては、その土地で永らく使われてきた自然の色が良いと思われます。
石州瓦に合わせて有福らしく石州瓦の来待色、現況の出湯橋の欄干に合わせた朱色、周りの植物に合わせて深緑色、福光石に合わせた灰色など、色々な候補が挙がります。
長い年月の好みに耐えうる、自然で素朴な昔ながらの有福らしいデザインが好ましいと考えます。

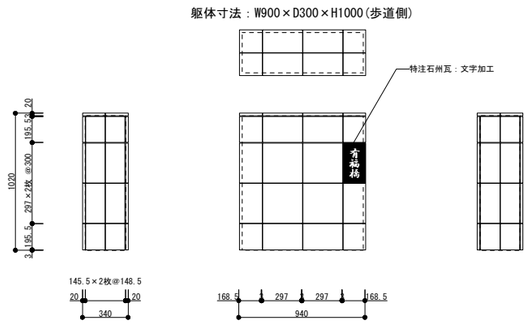
三朝温泉親柱灯篭デザイン（Google map 参照）

新設橋　イメージパース（参考：来待色）









桁色 1　石州瓦に合わせた　来待色

桁色 2　現況の出湯橋と合わせた　朱色

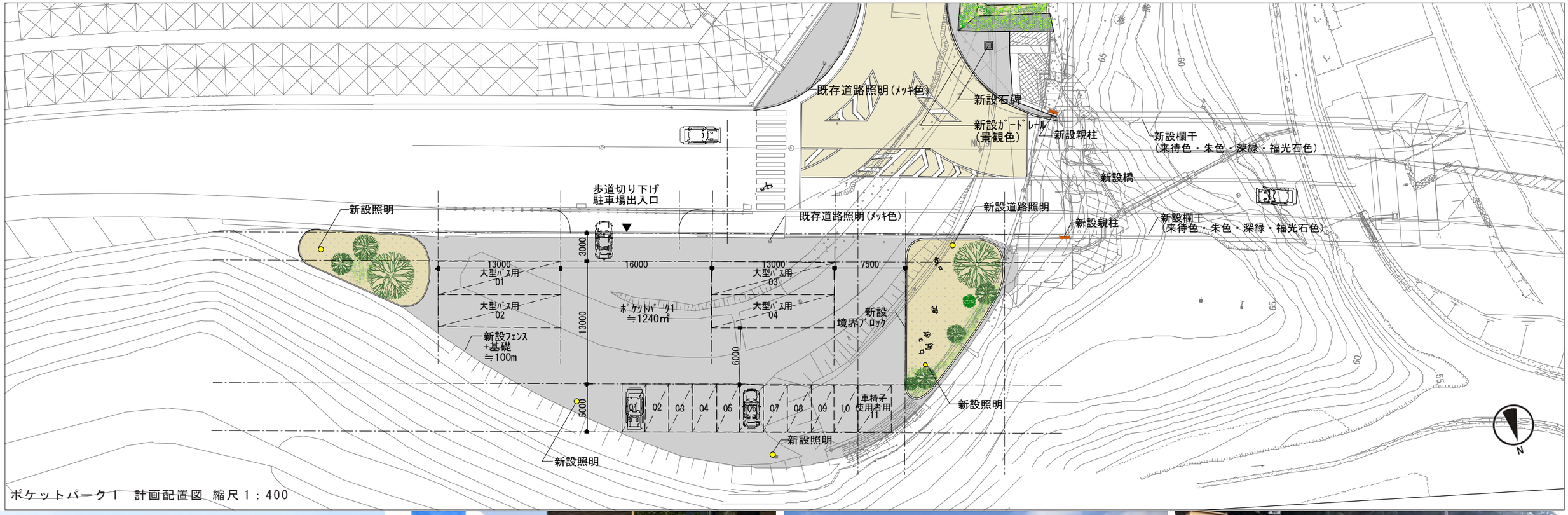
桁色 3　周りの自然に合わせた　深緑色

桁色 4　福光石に合わせた　灰色

03 旧道残地①の活用計画

『ポイント』
- 駐車場の整備
- 景観に配慮した照明の整備

旧道残地①は有福温泉街への新たな玄関口となるＴ字路に隣接した広い残地です。
現在、温泉街の駐車場は街中に２つの公営駐車場を有し、原爆療養所跡地にもフリースペース・駐車場を有しています。
街中にかなりの駐車場台数を有していますが、温泉街の入り口が狭いため大型車の通行が出来ません。その為、この旧道残地を舗装し、大型バスなどが停まれるようにすると便利でしょう。
またフリーマーケットやイベントスペースとしてもフレキシブルに門前スペースを活用できます。
新しい交差点には既設の道路照明がありますが、亜鉛メッキ色となっている為、景観に配慮した色調の道路照明への交換を検討します。



ポケットパーク１　計画配置図 縮尺１：400

ポケットパーク１　イメージパース

イベントスペースとしての活用イメージ

景観配慮型道路照明イメージ

景観配慮型街灯イメージ

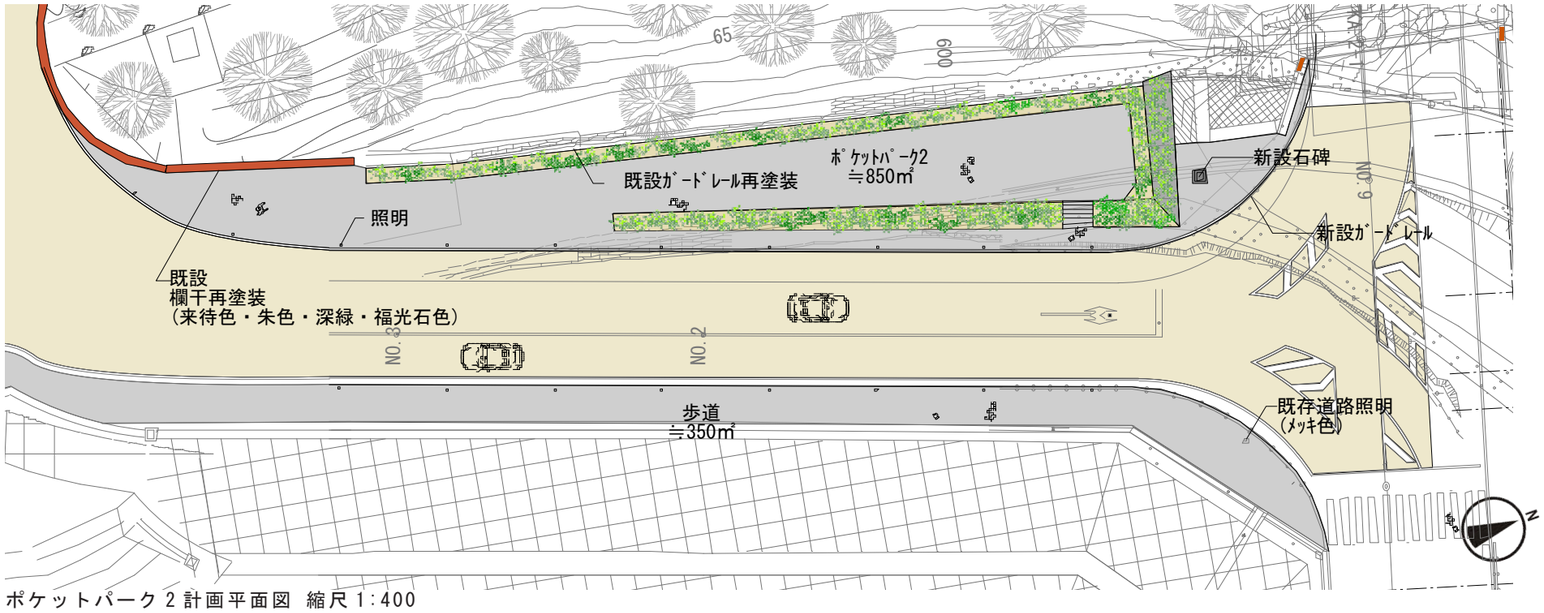
04 旧道残地②の活用計画

『ポイント』

現況の地形を活かした空間整備と有福温泉を示す石碑等を設置し、特別な雰囲気を演出

旧道残地②は温泉街へのアプローチ空間に沿った、玄関口の細長い敷地にあります。ここでは玄関口としてふさわしいアプローチ空間の一部としての意匠性と有福温泉のブランディングに寄与するポケットパークとしての役割が求められます。

まず、アプローチ空間の一部として、温泉街や神社仏閣など多くの人が立ち寄る場所の多くに境界のデザインがあります。ゲートを潜るとその先は別世界といった具合に境界の先の何かに向けて特別な雰囲気のアプローチ空間を作り出しています。ここでも橋の袂付近に有福温泉の表札を兼ねた石碑や灯篭、櫓の様なシンボリックなものを建てる事で結界を張り、有福温泉の歴史と風格に相応しい境界のデザインを施します。また、温泉のブランディングへの寄与としては、敷地に大きく鎮座する隆起した以前の道路部分の盛り上がり形状を活かしながら、植栽などを工夫し、島根県に多く残る古墳の様なインスタレーションを施してはと考えています。これは有福温泉のいにしえより続く歴史性と１万年前の雨水が湧き出す、ありがたい温泉に敬意を表したデザインです。



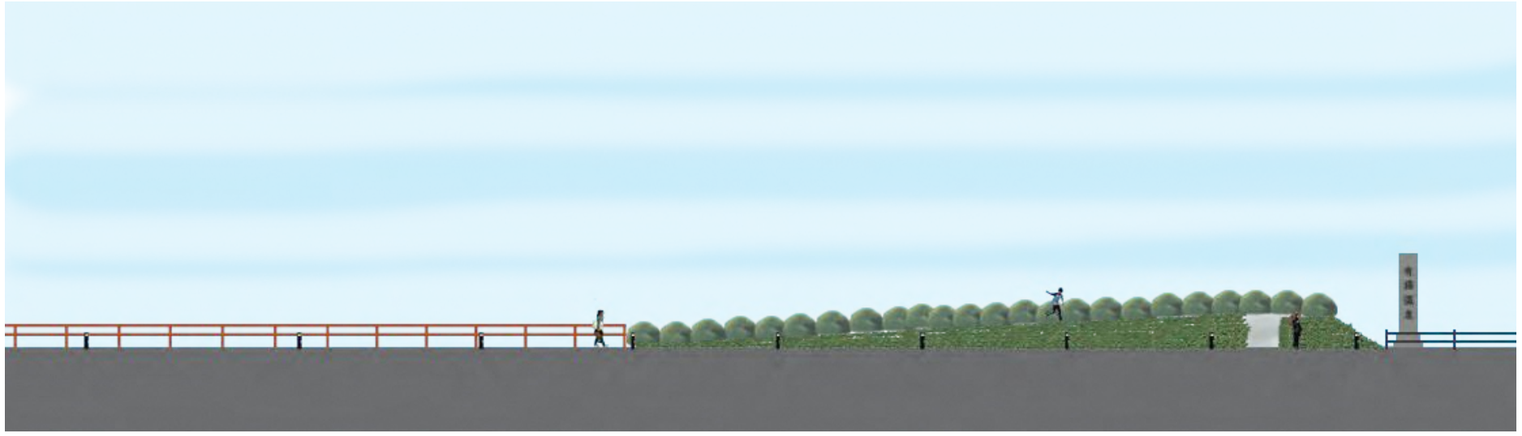
ポケットパーク２計画平面図　縮尺1:400

ポケットパーク２イメージパース

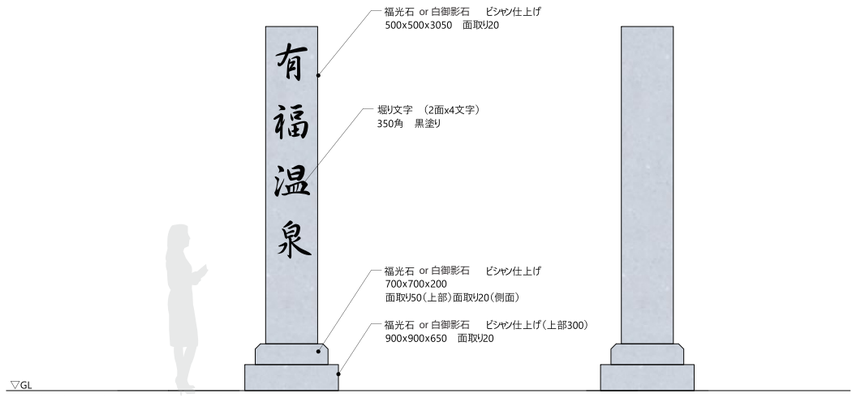
既設ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ再塗装イメージ

石碑や灯篭による神社の境界ﾃﾞｻﾞｲﾝ

石碑や灯篭による神社の境界ﾃﾞｻﾞｲﾝ



ポケットパーク２計画立面イメージ

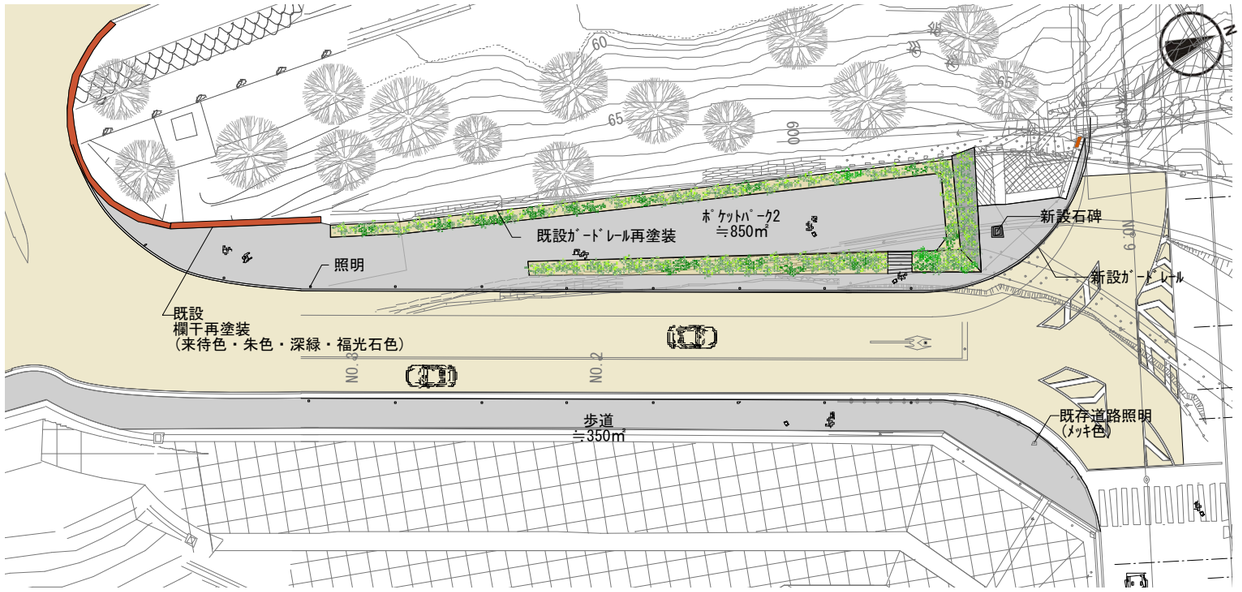


石碑計画立面イメージ

05 アプローチ空間としての道路整備

『ポイント』
・参道のような雰囲気を演出する照明の設置
・温泉街への自然な誘導を可能にする特別な舗装

アプローチ空間イメージ　歩行空間と車道空間をボーラード照明が穏やかに繋ぐ参道の様なアプローチ



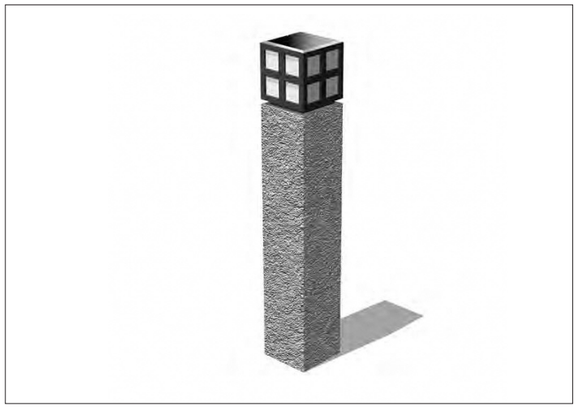
アプローチ計画平面図　縮尺１：500

温泉街を眼下に谷側の緑と崖に挟まれたアプローチ空間には気持ちの良い谷側にポケットパーク、崖山側に歩道が配置され、等間隔に照明のモニュメントを並べるなど、少し格式ばった参道の様なデザインを計画しています。
照明はまた、温泉街へのシークエンスの演出としてとても重要です。両サイドに等間隔に照明を配置する事で有福温泉へのプロローグとして特別な雰囲気を演出します。アプローチ空間の照明が坂道に沿ってなだらかに温泉街の入り口まで続き、温泉街の提灯や外灯に繋がり、有福温泉の夕闇から夜の情景をよりロマンティックなものに昇華します。照明はあまり大きくなりすぎず、さりげなく格式ある意匠に出来ればと考えています。
道路や歩道の舗装にかんしては脱色アスファルトや瓦舗装など品格があり自然なアプローチ空間となるよう計画しています。有福の柔らかく品格のある雰囲気にとても合う舗装です。

脱色アスファルト舗装（原鉱業参照）

瓦舗装（今井産業参照）

ボラード照明　参道（yamagiwa　参照）

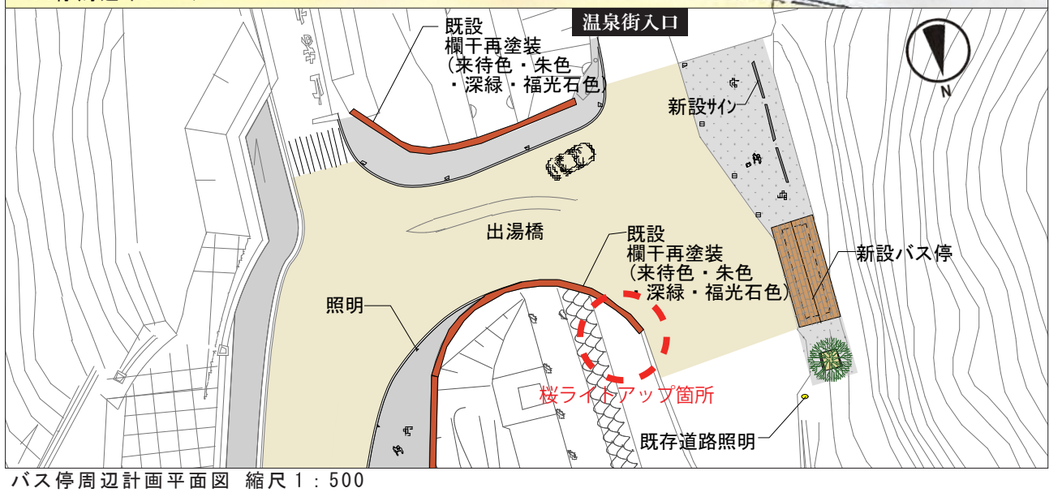


ボラード照明イメージ

06 温泉街入り口付近の景観改善

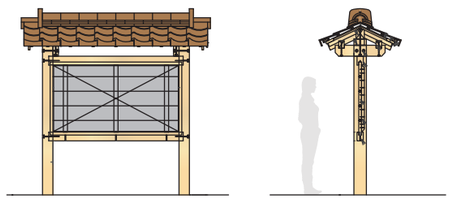
『ポイント』
- 既設橋の欄干を塗り替える（来待色、朱色、深緑色、福光石色）
- 既存バス停や案内看板等の更新を検討

バス停周辺イメージ

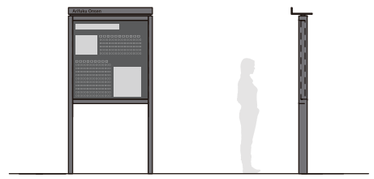


バス停周辺計画平面図　縮尺１：500

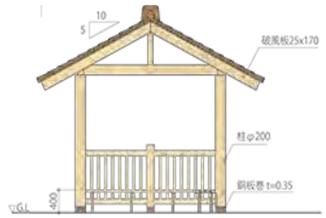
温泉街の入り口付近の既存橋の袂にバス停はあります。江津市・浜田市の広域観光マップや有福の見どころマップなどの看板を再整備をすることで、バスの待合での楽しみを増やし、温泉街の入り口としての機能としても、相応しいものになります。
看板・案内板のデザインをブラッシュアップし、マテリアルや色を統一化する事でより有福温泉の景観の魅力化につながります。
また、待合スペースに関しても石見交通と江津市との協議が必要ですが、有福らしい来待色の屋根と板張り壁等、簡素でシンプルな和風建築とすることで昔ながらのより有福らしい景観になります。
背後の山の植栽も綺麗な植栽計画を街ぐるみで改善されているため、温泉街の入り口としてとても風情のある景観になるでしょう。
既存の欄干も新設橋と同系色で再塗装する事により、アプローチ空間の一部として相応しく綺麗に整備された道の印象を作り出します。また、既設橋のたもとには有福温泉入口を彩る桜の木が植えられており、春にはライトアップを行うことで温泉街への誘客に寄与するものと思われます。



案内看板デザイン　１案

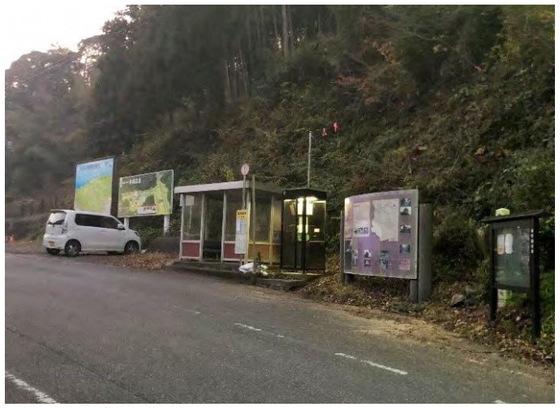


案内看板デザイン　２案

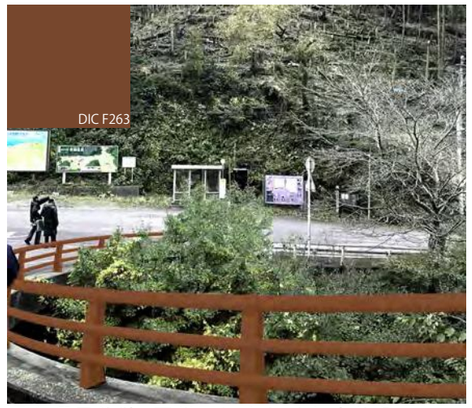


バス停立面イメージ

温泉街入口部分の桜ライトアップ試験の様子

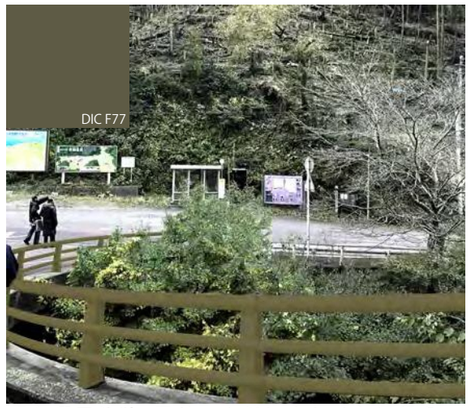


既存バス停附近

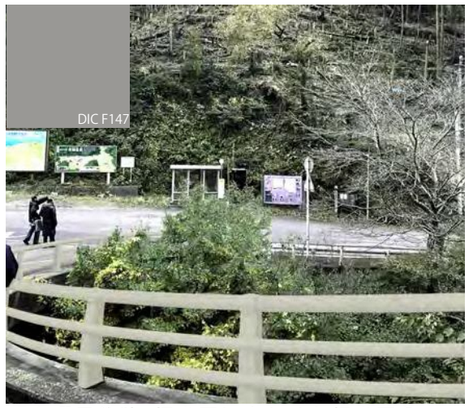


既存欄干塗装　石州瓦に合わせた来待色

既存欄干塗装　既存欄干に合わせた朱色



既存欄干塗装　周りの自然に合わせた深緑色



既存欄干塗装　福光石に合わせた福光石色

有福温泉周辺整備計画

発行日　令和２年７月
発　行　有福温泉活性化検討委員会
編　集　江津市 建設政策課
〒695－8501　島根県江津市江津町 1525 番地
電話　0855-52-7954
島根県浜田県土整備事務所 土木工務部土木工務第二課
〒697-0041　島根県浜田市片庭町 254 番地
電話　0855-29-5666